

## 令和元年度 府立網野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 生徒信条「青年は未来を信じ使命に生きる」の精神にのっとり、将来に対する夢や目標を持たせ希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。</p> <p>2 網高SVC（スタディー・ボランティア・クラブ）を推進し、知・徳・体・美のバランスのとれた生徒を育てる。</p>	<p>（成果）</p> <p>1 広報紙発行やホームページのタイムリーな更新によって、本校の特色・魅力を広く発信できた。</p> <p>2 年間平均自主学習時間は、昨年度よりさらに増加して113分で、目標としていた110分以上を達成した。</p> <p>3 5分前登校がほぼできており、落ち着いた学習環境が維持できている。また、部活動加入率も高水準で維持できた。</p> <p>4 チューター制をはじめとする丁寧な面談や面接・小論文指導等により、就職希望者全員の内定や国公立大学推薦入試で多くの合格を出すことができた。</p> <p>5 企画経営科では、専門学科教育を充実させ、地域貢献・地域創生の取組を推進するとともに、資格取得等で11名が教育長表彰を受けた。</p> <p>6 教職員メールを活用した業務改善や部活動の休養日設定を行った。教職員の20時退勤を目標に設定することで教職員の意識改革につながった。</p> <p>（課題）</p> <p>1 ICT活用やアクティブ・ラーニングの推進は一定進んだが、授業評価アンケートで主体的に学習に取り組んだ生徒の割合は減少した。</p> <p>2 いじめ認知件数は3件であった。</p> <p>3 ボランティア活動は新規の取組もあったが、参加延べ人数は目標に達しなかった。</p> <p>4 4年制大学推薦入試・一般入試に向けたさらなる実践力の養成が必要である。</p>	<p>1 遠隔教育システムを活用した取組等、学舎制による再編に向けて、久美浜高校との連携を進める。</p> <p>2 産官学連携による地域創生教育を推進し、地域の将来を担う人材を育成する。</p> <p>3 オリンピック・パラリンピック教育推進校として、スポーツを通して共生社会を目指す教育を推進する。</p> <p>4 広報活動の充実を図り、本校の特色・魅力を発信し、本校を第一志望とする生徒の増加を図る。</p> <p>5 ICT活用やアクティブ・ラーニングによる授業改善を進め、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。</p> <p>6 学校行事・部活動・ボランティア活動等をとおして主体的に考え、行動する生徒の育成を図る。</p> <p>7 いじめには組織的に対応し、予防や早期発見・早期解消に努めるとともに、情報モラル教育の徹底を図る。</p> <p>8 1年次からの徹底した進路指導により、進路意識の向上を図るとともに、希望進路実現のための基礎・基本の徹底と実践力の養成を図る。</p> <p>9 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、コンプライアンス意識の向上や新学習指導要領への対応等、ステージに応じた教職員の資質能力の向上を図る。</p> <p>10 教職員の働き方改革を進めるために、教職員の意識改革と業務改善に取り組む。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
特色化事業	・広報活動の充実と生徒募集の拡大	・広報紙とホームページにより本校の教育活動の特色・魅力を広く発信する。 [ホームページの更新回数週5回]	A	A	・広報紙の発行は毎月できた。ホームページの更新については学校行事やインタビューを中心に更新に力を入れることができた。また、丹後緑風高校ホームページを開設した。[ホームページの更新回数週5.4回]
	・地域創生の取組とオリンピック・パラリンピック教育の推進	・地域と連携した活動に主体的に取り組むとともに、地域の魅力や課題に気づき、その発信や課題解決に取り組む。 [TACの取組年間4回以上]	A	A	・川すそ祭後の清掃活動、ポッチャ体験の企画、ウルトラマラソン高校生エイドの運営、ドリーム大作戦への参加等、地域貢献活動を積極的に行った。ちりめん祭では工房めぐりで伝統的な地場産業に触れ、その魅力をレポートした。[TACの取組年間5回実施]
		・パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッドスポーツ等の理解を深め、障害の有無にかかわらず誰もが共に楽しめるポッチャを体験する。 [生徒のポッチャ体験者の割合100%]	B		・ポッチャ体験者数は52%の結果であるが、認知度はほぼ100%となっており、年度内に生徒・教職員ともに体験者100%を目指す。地域への発信も積極的に行い、美書展では80人を超える方に体験をしていただくことができた。 [生徒のポッチャ体験者の割合52%(12月末)]
組織・運営	・学舎制実施に向けた体制整備	・学舎制に実施に向け検討を一層進めるとともに、久美浜高校と連携した取組を計画・実施する。 [久美浜高校と連携した取組年間5回以上]	A	A	・農商連携授業や研究発表大会への参加等、久美浜高校と連携した取組を実施することができた。学舎制実施に向けた体制の整備も進めてきたが、学舎制による効果を上げるために今後も一層緊密な連携が必要である。 [久美浜高校と連携した取組年間5回実施]
	・教職員の資質能力の向上	・本校の教育課題への対応と教職員のステージに応じた能力向上のための研修の充実を図る。 [センター研修の受講延べ数25回以上]	A		・新学習指導要領や高大接続改革等の課題に対応する研修の充実が必要である。センター研修の受講は一定進めることができた。 [センター研修の受講延べ数25回]
	・教職員の意識改革と業務改善による働き方改革の推進	・業務改善アンケート等を実施し、業務の見直し効率化を進めるとともに、19時30分退勤を目標とする。 [学校全体での業務改善各分掌1項目以上]	B		・退勤時間が全体に早まるなど教職員の意識改革は一定進んでいる。グリーンデーの取り方の工夫をはじめ、具体的な業務改善をさらに進める必要がある。 [学校全体での業務改善5項目(8分掌中)]
学習指導	・生徒の主体的な学びの支援	・アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的な学びを深めさせる。 [授業評価アンケートで主体的な学びが工夫されていると回答した生徒の割合80%]	A	B	・各教科でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が増え、生徒の学習活動もスムーズに行われている。生徒の主体的な学びを深めさせるため、教員による指導方法の一層の研究が必要である。 [授業評価アンケートで主体的な学びが工夫されていると回答した生徒の割合95%]
	・効果的な授業に向けた取組	・ICT機器や遠隔教育システムの積極的な活用	B	B	・研究授業のテーマにICTの活用を掲げ、ICT機

	の推進	を推進する。 〔ICT機器及び遠隔教育システムを活用した教員の割合90%〕			器を活用する教員が増えている。特に効果的な活用事例について、教科を超えた交流を進めたい。遠隔教育システムについては、本格運用に向けて活用方法の研究をさらに進める。 〔ICT機器及び遠隔教育システムを活用した教員の割合77%〕
		・科目間の相互関連性を重視した年間指導計画についての研究を進める。 〔教科主任会議を通じて検討会を5回以上実施〕	C		・検討会は2回の実施に留まったが、各教科からリストアップされた育成する力の方策をまとめ、検討会にて情報共有を行った。 〔教科主任会議を通じて検討会を2回実施〕
生徒指導	・健全な生活態度を維持できる人間の育成	・明るく元気なあいさつ・身だしなみ、礼儀・マナーの指導、予鈴登校・ヘル前着の定着に全教職員で取り組む。 ・情報モラルに関する講演会を実施する。 〔年間遅刻回数30回以内〕	A	A	・遅刻予防週間の取組を実施し、8時40分の校門遅刻者が大幅に減少するなど、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・ネット講演会を早期に開催しているが、個人情報をSNSに安易に載せる例が増えている。また、家庭の協力を得るためにも保護者向けの講演会も必要である。〔年間遅刻回数5回〕
	・心身の調和のとれた人間の育成	・新入生体験入部週間等を実施して部活動加入率を維持する。 ・新規の取組を取り入れ、生徒会（委員会）活動の活性化を図る。 ・いじめを見逃さず、組織的に早期に対応する。 〔部活動加入率80%以上〕	A		・生徒数の減少が部活動の活性化に影響を及ぼすなか、部活動加入率は若干下がったが、80%以上は維持できた。 ・生徒会を中心に、ポッチャ体験の取組をスムーズに行うことができた。 ・生徒のいじめ調査に加えて、教員による気になる生徒アンケートを実施することで、生徒指導やいじめ・不登校対策に役立てられた。〔部活動加入率87%〕
	・地域社会に貢献できる人間の育成	・地域連携や自転車安全推進員の活用等によりボランティア活動の活性化と職業観の醸成につながるよう充実を図る。 〔年間活動延べ人数1500人以上〕	B		・自転車安全利用推進員やTACの取組等の新しい取組も増え、多くの生徒がボランティア活動に参加し、地域貢献を果たしている。一方でボランティア活動への参加意欲はあるが、他の活動と重なり参加の難しい生徒も多い。〔年間活動延べ1029人〕
進路指導	・主体的な進路意識の育成	・1、2年生の生徒、保護者に対して大学入試改革等に関する最新情報を効果的に提供する。 ・各種進路行事の適切な実施と担任、チューター、進路指導部員による面談をきめ細かに実施する。 〔1年生の進路希望未定者10人以下、2年生の進路希望未定者0人〕	B	A	・分野別説明会や進路講演会を通して情報提供を行ってきた。大学入試改革には不確定な部分も多く、今後も最新情報の提供が必要である。 ・担任面談に加えてチューターや進路指導部による面談を実施し、きめ細やかな指導を行った。しかし、生徒の進路意識が以前に比べ弱くなっており、生徒自身に希望進路に応じた情報を収集させるなど、主体的な

					取組となるような指導が必要である。 [1年生の進路希望未定者17人以下、2年生の進路希望未定者5人]
	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職講習、模擬面接等早期からの就職指導を充実させる。</li> <li>授業、進路講習、デジタルコンテンツ事業、小論文指導、面接指導等を一体的に行う。 [就職内定率100%、最終進路希望調査の希望実現率90%以上]</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>就職については、早期から指導を行うことで内定率100%を達成できた。</li> <li>進路講習やデジタルコンテンツの生徒の利用状況など実態を把握し、より効果的な実施方法等について検討する必要がある。 [就職内定率100%、最終進路希望調査の希望実現率89%]</li> </ul>
保健・安全 教 育	健やかな心身の育成と食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関と連携した講演会を開催する。</li> <li>生徒保健委員会による健康啓発活動に取り組む。 [講演会2回以上、保健委員会の取組2回以上]</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用防止講演会や性教育講演会等実施するとともに、結果を保健だよりで生徒に返し、事後の振り返りも行った。</li> <li>文化祭の発表等、生徒保健委員会による活動を計画的に実施できた。 [講演会5回、保健委員会の取組4回実施]</li> </ul>
	安全意識の向上と危機対応能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練を2回実施する。</li> <li>自転車安全推進員講習会を実施する。 [防災訓練2回、自転車安全推進員講習会1回]</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>2回目の防災訓練は予告なしで休み時間に実施したが、生徒は適切な行動ができた。</li> <li>自転車安全推進員講習会を実施した。(今年度の推進員は111名) [防災訓練2回、自転車安全推進員講習会1回実施]</li> </ul>
人 権 教 育	生徒の人権意識の高揚と人権問題の解決に向けた具体的な行動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習や日々の生徒指導を通じ、様々な人権問題を正しく理解させる。 [人権学習ホームルーム各学年2回以上実施]</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年2回の人権学習ホームルームを実施した。外部講師を迎えての講演会は非常に意義があった。 [人権学習ホームルーム各学年2回実施]</li> </ul>
	教職員の認識の深化と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな差別解消法制定等の状況を踏まえた校内教職員研修を1回以上実施する。 [研修実施回数]</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>人権3法の内容を踏まえ、教職員研修を実施し、新しい人権課題についての知識を身に付けるとともに他者理解、差別のない学校、社会づくりについて学んだ。 [教職員研修1回実施]</li> </ul>

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内ですれ違う生徒が、良く挨拶ができる。</li> <li>即戦力が求められる時代の中で、企画経営科では挨拶やパソコン技能など実践的な授業が行われている。</li> <li>企画経営科では資格試験(検定)に対応した授業も行われており、取得資格を活かした進路指導も積極的に行われている。</li> <li>久美浜高校との遠隔授業等、ICT機器のトラブルも心配される。教員の機器の使用への習熟が必要である。</li> <li>いじめについては、生徒の変化をつかむ努力をして、今後も早めの対応をお願いしたい。</li> <li>学校評価アンケートで生徒と保護者のギャップを感じる。アンケート結果を改善に活かし、改善した点は積極的に伝えるようお願いしたい。</li> <li>3年間を振り返って網野高校に行って良かったという評価を大切にしてほしい。</li> </ul>
-------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい教育目標、教育方針（育成する力）、育てる生徒像を教育活動の中に明確に位置付け、その具体化を図る。</li> <li>・広報については、さらなる内容の充実を努め、本校の特色や生徒の活躍の発信に努める。</li> <li>・久美浜高校・久美浜学舎との緊密な連携を図り、農商連携の推進や合同部活動に向けた準備を進め、学舎制の体制整備を進める。</li> <li>・業務改善アンケート等を実施し、学校行事の見直しや業務の効率化を図り、業務改善の取組をさらに進める。</li> <li>・ICT活用やアクティブ・ラーニングについて、先進的な教員の実践を共有し、授業改善の取組を進める。また、遠隔教育システムの本格運用に向けて活用方法の実践的研究をさらに進める。</li> <li>・総合的な探究の時間を中心に、生徒の課題発見・解決力や情報の収集・分析、発表・表現等の力を育成するために探究活動の充実を図る。</li> <li>・いじめについては、今後も組織的な対応を進め、予防や早期発見・早期解消に努める。また、情報モラル教育は、今後も継続して指導を行う。</li> <li>・ボランティア活動等の地域貢献・地域創生活動の推進を図り、生徒の主体的な取組やキャリア形成につながる取組となるよう充実を図る。</li> <li>・大学入学共通テスト等の高大接続改革に対応する実践力の養成と適切な進路情報の提供を進める。</li> </ul>
----------------------	---